

小川信夫作
杉本孝司演出

大いなる家族

— 戦後川崎ものがたり —

川崎・しんゆり芸術祭 (アルテリッカしんゆり) 2013

人のぬくもり、支えあい
復興に立ち上がる人々を描く創作劇



デザイン=城谷護
絵=山川靖夫

2013年(平成25年)

5月	2日(木)	夜7時	多摩市民館 (多摩区)
	3日(金・祝)	昼2時	
	4日(土・祝)	昼2時	
	24日(金)	夜7時	川崎市教育文化会館 (川崎区)
	25日(土)	昼2時	
	26日(日)	昼2時	

主催 川崎郷土・市民劇上演実行委員会
 共催 川崎市 川崎市教育委員会 (公財)川崎市文化財団
 協賛 川崎市総合文化団体連絡会
 川崎沖縄芸能研究会 川崎市観光協会
 実行委員会 〒210-0007 川崎区駅前本町 12-1 3F
 川崎市文化財団内 電話 044-222-5818

スタッフ

作 小川信夫
 演出 杉本孝司
 演出助手 内田 勉
 舞台美術 内山 勉
 照明 坂本義美
 音楽 小森昭宏
 音響効果 山北史朗
 衣裳 山田靖子
 京浜協同劇団衣裳部
 大道具 イトウ舞台工房
 小道具 護柔 一
 舞台監督 高橋信濃
 制作 城谷 護
 制作助手 関 昭三
 実行委員長 水野哲夫
 黒田俊夫

小川信夫作
 杉本孝司演出
 (東京芸術座)

大いなる家族

— 戦後川崎ものがたり —

ものがたり

川崎は空襲で大きな被害を受けた。駅近くの焼け跡に建った居酒屋「海ぶどう」を舞台に物語は展開する。店主、加寿子が沖縄出身ということで沖縄から働きに来た客が集まる店である。米軍統治下で故郷の沖縄には帰れない。若い舞踊家、明子は沖縄の伝統芸能をこの川崎で伝承したいと巨匠、渡嘉敷の門を叩く。そして、ついにその伝統芸能が

川崎市と神奈川県から無形文化財に指定される時が来る。

一方、加寿子の友人で教師の悦子は、戦地の中国でいいなずけが自決、傷心の淵に沈む。貧困、家族の崩壊、絶望、しかし、人々はひたすら夢を追い、人間同士の絆を求めて立ち上がっていく。

東日本大震災の被災者に思いを寄せる作者の目が温かい作品である。

出演者

○☆マークはダブルキャスト
 延田 知香○ 南 敦子☆
 藤田麻衣子○ 田中美奈子☆
 萩原みどり○ 瀬谷やほこ☆
 稲垣美恵子○ 福留 千恵☆
 山田 育代○ 池田 亜紀☆
 中川 和恵 小岩井真由美○
 森平 理子☆ 柴田 悦子○
 中谷麻由子☆ 若菜とき子
 吉武英里子○ 川向あゆみ☆
 五十嵐章子○ 花城 幸子☆
 坂木 フミ 板垣けゑて
 島貫 晶江☆ 石山 海
 ミズノタクジ 護柔 一
 上村健太郎 高山 正樹
 小川がこう 宮森 信次
 菅野 裕士 袴田 浩之
 渡辺 高志 福田健司郎
 斉藤 成郎 大谷 敏行
 枯木 啓佑 藤井 康雄



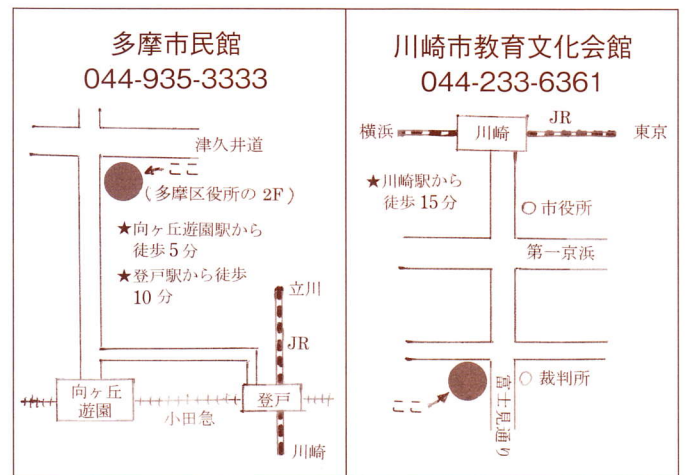
黒田俊夫
 実行委員長

川崎市民の誇れる演劇文化を

川崎郷土・市民劇は、川崎の歴史や人物を採り上げた創作劇を上演することで市民文化の向上を図り、あわせて豊かなまちづくりを推進するという目的で7年前に始まりました。これまでに、「多摩川に虹をかけた男—田中兵庫物語—」、「池上幸豊とその妻」、「枅形城 落日の舞い」を上演、プロの力を借りながらも市民の手で創り出し、毎回3千数百人のお客さんに観ていただきました。川崎市民が誇れる演劇文化にしたいものです。

前売券

A席(自由席)大人 2,500円
 小学～大学生・身障者 1,000円
 (当日券は各500円増)
 S席(指定席)大人 3,500円
 (学生・身障者前売り券及び当日券はなし)



2013年(平成25年) 5月上演

○☆はダブルキャストの出演日(予定) 開場は30分前

開演	2 (木)	3 (金)	4 (土)	24 (金)	25 (土)	26 (日)
昼2:00		☆	○		○	☆
夜7:00	○			☆		
会場	多摩市民館 (多摩区)			教育文化会館 (川崎市)		

前売券取扱所

- ・しんゆり芸術祭 044-955-3100
- ・川崎市民劇場(川崎) 044-244-7481
- ・川崎市文化財団 044-222-8821
- ・川崎市民劇場(溝口) 044-455-7950
- ・アートセンター 044-959-2255
- ・京浜協同劇団 044-511-4951
- ・プラザ・ソル 044-874-8501
- ・ぐらす・かわさき 044-922-4917

市民劇上演実行委員会 (10:00~17:00)

〒210-0007 川崎市駅前本町12-1 3F 川崎市文化財団内
 TEL.FAX.044-222-5818 Eメール shimingeki2013@gmail.com